

夜間学校 ニュース

1989年6月9日

西成区萩之茶屋2-8-9

旅路の里気付

釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の

指紋押なつ拒否断固支持!

定住外国人に市民権を!

中国について

熱気を学ぶ

中国では、えらくもめて
いる。基本は、えらいさん
の権力争いだらうが、若い
人達の熱気はホンモノだろ
う。日本のエライさんたち
も、中国の若者たちの怒り
のもとになったのと同じよ
うに、金でクサリキってい
る。

にしがみつく。日本では、
もう、みんながアキレきっ
て、騒動にならないようだ
が、中国の人々は、アキラ
めず、自分達のカでまだま
だ社会のしび、動きをかえ
られると信じきって、生命
を投げだしている。

その中国人留学生の中に
は小学生のころ、文化大革
命の最中、毛語録をかざし
てデモに参加したという人
もいた。
留学生はそれぞれ中国の
経済発展につくそうこの熱
意が高かった。
そして、釜ヶ崎にきて、
近代化につきまとう影響を
よくキモにめいじたようで
あった。

仲間の死
本籍、住所不詳、氏名自
称中西某、50歳の男、身長
145センチ、ヤセ型、着衣紺
色ズボン、ベージュジャン
パー遺留金品現金52万円
右の者は、昭和61年11月
14日午前7時50分ごろ、西
成区山王スー14-10万盛り
場内にて発見されたもので、
同日午前7時10分ごろ同所
において死亡し死因不詳検
察中としたものと思われる。

毎週金曜日
夜七時より
市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

みんなでつくろう

みんなの会館

三人よれば 何とかの 知恵

政治家、権力者は、金に
くさり、そして、その地位

一二三、三年、中国から
の留学生を、かれこれ二十
数名、釜ヶ崎界内した。

その彼、彼女たちはどう
しているだらうか。
内乱となれば、中国から
の難民が続々と日本へくる
可能性大とは、久米宏の言であつた。

身柄引取人不明につき、
検視解剖のうえ、北斎場に
て火葬に付したので、心当
たりの方は西成区役所まで申し

現場で

外国人と

諸君に働く

六月に入ってから、ずっと晴天が続いています。日中の最高温度が三〇度を越したことも何度ありました。梅雨入り自体は例年なみとのことですが、最高温度と最低温度との差が一〇度近くあると、やはり体にいいわけありません。ただでさえ仕事をみつけるのがむづかしい、この時期、お互いに体だけは大事にしたいものです。

「ワシはだいたい飯場に入っているけどケタオチのところが多いな。ワザと金を貸すところがあるやろ」

「あるなあ、こっちは別に借りたないのにな、それで結局体をしぼるわけや」

「たしかに、借りた金はかえさなあかんけど、まあいやいや借りた金やから、かえすのもさっさと気持ちよ返す気にならんわ。そうすると別なところに仕事に行くわな」

「諸式もずいぶん高いのが多い。小ビールで五〇〇円とるとこもある」

「だいたい、諸式は福利厚生なんやから普通の店で買うより安うするのが本当の姿と思う」

「日本橋筋のNTTのこのジュースなんかの自動販売機は九〇円や」

「まあ、酒なんかでだいがゴマかされてるんやけど、一つところに五年も六年もおる人がおるな」

「雨の日はセンターへ行って認定がもらえるとということもある」

「古くからおるのが威張り散らすことがあるので、ワシは飯場にはいかんようにしてる」

「飯場に入るくらいなら、アオカンするいう人も多い」

「現金やったら、現場の人間関係でイライラしても帰ってきたらそれまでや、ところが飯場はそうはいかんからな」

「ワシは給料は飯場で貯めておいて持ち逃げされそうになつたで、どうにもしようのない奴はおるもんや」

「出願預ってる奴に逃げられたりすることもある、これほど情けないことないで、飯場でなんとか合わしていかうとしてもうまいこといかんこともあるしな」

「西宮の飯場におった時、中国人がおった、土木の仕事をしていた、日本語もできたけど、一〇時の休憩はあるかとか、残

業はちゃんとつくかとか、なかなか徹底してたな」

「まあ、真面目なもんや、日本人はなかなか言わんで」

「工場に入ってる外国人も多いらしい」「ワシも何回か一緒に仕事をしたけど、一番の障害はやっぱり言葉や」

「一人だけの単独作業やったら問題ないけど、共同作業やったら困ることが多いで、日本人の大工ひとりだけでやってる現場で働いたことあつたはみんな韓国人やつた、これしてくれ言うたら、ハイハイ言うんやけど、全然わかってないねん」

「要するにカラ返事やな」

「これはな、九州とかの出稼ぎの人でも事情は同じや、判らない、伝わらないからフンフン言うことはあるで」

「いろいろ気を使って、精神的に疲れているとやっぱイライラが高じるで」「日本語をもっと覚えて欲しいな、追い出せとは言えないけど」

「奈良の現場で鉄筋屋をやったけど、二人でペアになってやるのはちょっと怖いな、鉄筋屋は危ない仕事が多いから、どっちも怪我をすることになる。声をかけてもわからんし、通じないからよけいイライラするで」

「これを解決するにはヤッパリ通訳がいるで」

「拒否するつもりはないけど、安全面は大事や」

「むこうの人も悩んでるんと違うか、賃金もだいが違うで、メシ付で安いところで四〇〇〇円というのもある」

「ダシ植は一緒やろ」

「書類では同じやろな」

「怪我をした時はどうなるんや」「労災にはなるやろ、メンドウはきちんと見ささなあかんで」

「手配師に日本語の教則本を渡して、これでなんとかしたらどうやと言ったことあるけど、三ヶ月で帰るからなと言われたわ」

「現状では観光ビザで来ている人やから不法就労ということになる、いつ摘発されるかと不安やろう、どうしてもイライラするで」

「まず、法律を変える必要があるな」「法律を変えても仕事のない時はオッポリ出すのでは問題とちがうか」

「東京では外国人の鉄筋屋を養成してるらしいで、なんでも都庁の仕事で二〇〇人から人がいるらしい、山谷だけでは追いつかんらしい」

「センターにも求人に来てるな」「それで養成というわけか」

「大阪でも府庁を建て替えるとなると同じように二〇〇〇人から人手が必要になるわけやな」

「昔は東京から大阪に来るといのが多かったのに、最近は大いぶ風向きが変わってきたわけやな」